



神奈川県

「江の島丸」コラム

こんにちは。7年ぶりに水産技術センターの漁業調査指導船「江の島丸」（105トン）に戻ってまいりました、機関部担当の島田績（しまだいさお）です。

私は神奈川県水産技術センターに入庁して9年目です。入庁した最初の年には、この「江の島丸」に1年間、機関部として乗船していました。その後は別の船に移り、昨年度までは、小田原漁港を起点とする相模湾試験場の調査指導船「ほうじょう」（19トン）で同じく機関部を担当していました。

「ほうじょう」は小さい船ですが、相模湾のさまざまな海域を調査するために、ほぼ毎日のように出港し、忙しくもやりがいのある業務を経験させていただきました。船の整備やエンジンの点検など、限られたスペースの中で効率的に調査作業を進めることを心がけてきました。

水産技術センターに入る前は、民間の海運会社に勤め、東京湾内を航行するコンテナ船に6年間乗船し、その間、船舶免許を取得しました。コンテナ船では、多くの荷物を正確かつ安全に運ぶために、厳しいスケジュールの中で船を支える仕事をしていました。このときに学んだエンジン整備の知識は、今の仕事にとっても役立っています。

これまでに私が乗ってきた船は全部で3隻になりますが、「江の島丸」はその中でも一番大きく、設備も整っているため、再びこの船で仕事ができることに大変感謝していると同時に緊張感を覚えます。また、初めて県の仕事に携わった船でもあり、思い入れがあります。

これまでの経験を活かして、「江の島丸」の安全な運航と、スムーズな調査活動を支えるために力を尽くしていきます。機関部として、エンジンや設備を理解し、乗組員の皆さんが安心して業務に集中できるよう努めてまいります。

